

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2013 年 2 月 20 日

N o 11

会社：厳しい収入状況だが、今年度黒字に向けて全力をあげる！
組合：計画未達の責任を社員に転嫁することは許さない！

第 2 回 賃 上 げ 交 渉 報 告

中央本部は、本日 10 時より第 2 回賃金引き上げ交渉を行ない、会社側から収入動向について説明を受けました。

1 月の輸送状況は、①コンテナ輸送は紙パルプや災害廃棄物が引き続き好調だが、自動車部品や化学薬品が減送となっている。特に自動車部品はエコカー減税が終了したために急激に落ち込んでいる。コンテナ収入は対前年比で 98.2% である。②車扱輸送は、寒さが厳しいことから灯油の出荷が旺盛となっているものの、ガソリン価格が高騰しているために需要減となり減送となっている。また、昨年は臨時列車が運行されていた反動もあり、車扱収入は対前年比 75.6% である。③2 月 19 日までの輸送概況は大きな輸送障害が無かったことから、収入は計画に対し最低限の落ち込みでとどまっている。

また、関連事業については駐車場の契約延伸・建物貸付・物販・土地売却などの増収策を実施した結果、24 年度落ち着き見込みは、10 月期改定計画の 321 億円を上回る 323 億円を想定している。年度末に向けて収入確保に全力を挙げ、黒字達成を目指して行く。ただし施策の前倒しによって平成 25 年度は厳しくなるので新たな関連事業を検討していく姿勢を示しました。

中央本部は、①収入未達が続く中、収入を確保する具体策はあるのか。②多発する輸送障害に対して荷主の逸走を防ぐために会社としてどのように対応するのか。③25 年 3 月ダイヤ改正における 23 億円の収入効果は実現可能なのか。④平成 24 年度の収支の落ち着き見込みと今後の展望を明らかにすることを指摘しました。

これに対して会社は、①新規荷主の開拓や余席販売、ソリューション活動の推進もあるが、既存荷主に対して増送を依頼していくことに重点を置く。②経営幹部に対し、経営会議などで営業の現状は伝えており、荷主の逸走を防止するために必要な対策は講じていく。③一部の列車について荷物が集まっていない状況だが、引き続き荷主へ売り込んでいく。④現時点、落ち着き見込みは数値化できないが、引き続き黒字確保を目指してあらゆる方策をとる。と回答しました。

中央本部は、収入未達は経営責任であり、社員にその責任を転嫁するのは許されない。経営陣自らが策定した収入計画が実現出来ない状況で、その責任の所在を明らかにしない会社経営陣の姿勢は絶対に認められない。会社は平成 25 年度も経常利益を黒字で計画していると認識している。この場合は賃金引き上げ交渉の場であり、引き続き協議していく。ことを突き付けて交渉を終了しました。

会社は、自然災害や輸送障害が多発する中で、安全と安定輸送確保のために歯を食いしばって奮闘する職員の組合員の努力を全く無視し、黒字決算の為に一層の経費削減を行おうとしています。中央本部は、収入確保への努力を放棄する会社経営陣を断固として認めるわけにはいきません。このような会社の経営姿勢を許さず、私たちの努力が報われるための交渉を強化します。職場からの闘いの構築を要請し、第 2 回賃金引き上げ交渉報告とします。

次回の賃上げ交渉は、3 月 1 日（金）です。

以 上